

評価項目2 (人間性や社会性に関すること)

重点目標		○社会性・人間性の育成は、基本的な生活習慣はもとより、人間関係の良好な形成や規範意識の高揚と子ども一人一人の感性を醸成する活動を十分に与えることによって高められた社会的役割を認知するものであるととらえ、これらを通して人間尊重の精神・態度の育成を図る。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	子どもたちは、挨拶運動や日常の学級指導を通して、明朗な挨拶や会釈ができるている。	校内で出来ていても、校外でしっかりと挨拶出来るようにどんな指導を工夫しているのか？御殿山小は「ちがう」ぞという目でみたい！	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の意味や価値を指導し、どんな場面でも自分から挨拶できるように育てる。学校の取り組みについて家庭に理解をいただき、一緒に挨拶指導に取り組んでいただくために、年度初めの全体保護者会などで協力を求める。 ・低学年では廊下ですれ違った際に立ち止まって丁寧な挨拶をする児童もいるが、高学年になると教員から挨拶をされてからしか挨拶をしない児童が多い。この傾向が今年度になり顕著となった。職員員の挨拶指導の取り組み方に差がある為、手本となるべく教員の意識を高める必要がある。 ・挨拶隊のみの挨拶でしか無いように感じる。校内には、沢山啓発ポスターが貼られているのに。大人みずから、お手本を示さないといけない。 ・高学年へは、諦めずに根気よく挨拶をするように指導をする。
	定期的な挨拶隊を組織し、挨拶運動を全校で毎朝行う。	1～6年 校外での挨拶については、家庭と連携をとっていく必要がある。また、学年で統一できているのか、高学年がなかなか挨拶しない。	B	
②	子どもたちは、学習や生活の規律を守り、節度のある学校生活が送れている。	学校で決まったことが、教師のもとへ行行った段階で、統一出来ていない。担任により許されるものとそうでない者の格差が大きい。言葉遣いも一部は乱れている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・看護当番日誌を確実に書き、児童理解、生活指導に生かす。児童の実態を定期的に保護者に伝え保護者に理解と協力を求める。指導マニュアルに学校のきまりが明確にされているにもかかわらず、職員異動等で共通指導の徹底ができていない。学年会や職員連絡会などできまり遵守と指導の統一を確認する。特に不要なものを学校に持って来る児童については、学級に偏りがあり、ダメと指導する側が児童から嫌がられるのはおかしい。 ・校内のルール等について、生活指導主任を中心に1か月に1回程度、教員同士で確認していく。 ・統一できていないというか、一部の教員が統一させる指導がしきれないように感じる。学校全体で見えていく必要がある。 ・どの先生からの指導も受け入れられる指導を徹底する。
	学習規律や生活規律を毎月、生活指導部で点検し、改善の必要な学級へ支援をしたり、優れた行いには評価をしていく。	大人がルールを守らないために、下校登校時のマナーが出来ていない。教師や保護者ももっと自覚をもって欲しい。	C	
③	読書活動を通し、児童の心の成長や主体的な学習習慣、社会性をはぐくむ。	読書活動や図書館の利用等で、親しみをもって取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・読書への関心は高い児童が多いが、本の返却時のマナーが悪いため、全教員が繰り返し指導を行う。 ・教師が徹底して共通理解を図り、学校の規律に基づく指導の徹底が今後更に必要。 ・読み聞かせの機会を増やす。 ・朝読書をできているか否かは、ほぼ担任しか把握していない。強化月間を設け、全体で点検する体制等をつくる。 ・読書活動については、毎日読み聞かせをして積極的に取り組んでいる。 ・朝の会や市民科で公共機関の利用の仕方等を扱う。
	読書活動を推進する手立てや工夫を地域人材の活用や様々な側面から企画し児童に啓発していく。	PTA活動と連携した取組も行っている。(本年度PTA予算で本を購入するなど)	A	
	朝読書、読書旬間、図書ボランティアなどを充実させ、読書活動を推進していく。	下校後、公共機関(バス)を使用しての塾へ通う途中(車中)のマナーが悪く注意されることもある。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成